

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員が話し合った上で、認知症の方の思いそのものを事業所の基本理念としている。また地域との繋がりを大切に、老人福祉に貢献することを通じて、利用者一人ひとりがその人らしく幸福に暮らせることを目指している。	○	今後も定期的に管理者、職員が議論し、地域密着型サービスの役割を理解した上で理念の見直しを考慮していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの玄関に掲示し、利用者、御家族にも見て頂けるようにしている。管理者は月1回のケース会議等で、折に触れては職員が理念や方針を理解しているか確認し、サービス対応に実践されるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方には運営推進会議において、事業所の理念や利用者の方の生活状況等をご説明し、理解を深めて頂く一助にしている。	○	定期的に家族会も開催できるように取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の顔馴染みの方には、いつでも立ち寄って頂けるよう積極的にお願いしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人運営の老人福祉センターのカラオケ同好会や、お茶会への参加、また保育園児とのふれあいなど、地域住民の方との交流の取り組みができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	併設の事業所や地域のコミュニティと話し合い、 地域の認知症ケアの啓発や情報の発信基地として の役割を推進している。	○	事業所として地域住民の方の暮らしに役立つこと はないか、今後職員の力を養いながら取り組んで いきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者、職員が理解し、サービ スの質の向上の為、改善に取り組んでいる。	○	職員全員が参加した改善計画への取り組みが必 要。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	概ね2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、利用者 の生活状況やサービスの実際、評価への取 組み状況等について報告し、会議メンバ ーからの意見を受け止め、今後の取 組みに反映させるように努めている。	○	利用者や御家族にも、可能な範囲で会議に参 加して頂けるよう取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に取 組んでいる	市町村担当者に事業所の運営方針や現況を報 告し、情報交換並びに方向性をご指 導頂いた上で、サービスの質の向上に 繋がるよう取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必 要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	独居の方など必要な方には、地域権利 擁護事業、成年後見制度の活用を要 請している。	○	今後、職員の各種研修会にて制度等を学 び、意識を高めるよう取り組んでい きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関 連法について学ぶ機会を持ち、利用 者の自宅や事業所内で虐待が見過 ごされることがないよう注意を払 い、防止に努めている	府や市からの通達や、各種研修会にて 虐待に関する法律や具体例について 学んでいる。事業所内でも十分注 意を払って虐待の防止に努め、内 部・外部研修の実施等、職員間 でも再確認する機会を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	重要事項に、第三者委員や市町村、国保連等、それぞれの窓口への連絡先を記載していること、事業所内にも相談箱を設置していることの周知徹底。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	運営推進会議への御家族の参加、家族会の開催を積極的に呼びかけて、意見、不満等を表せる機会を設けるよう取組んでいきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	介護スタッフの人員確保とレベルアップに努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年7月、サービスの質の向上と職員の育成、チームケアの改善の為、事業所内(ユニット間)での異動を実施した。利用者の影響にないように、管理者や職員一人ひとりが配慮をし、ご理解頂いている。	○	職員の離職理由は人間関係によることが多く、改善には困難を伴うが、管理者の指揮でチームケアの向上に取り組んでいきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部が、管理者研修、リーダー研修、一般職研修と役職別に研修を企画し、その他にも有識者による講習会等も開催している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪府老人福祉連盟のグループホーム分科会への参加などで交流の機会を持ち、相互訪問やサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地域の同業者との積極的な交流
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内研修では他部署の職員との交流の場を設け、悩みなどを話す機会をつくっている。また、管理者は職員の悩みに耳を傾けるように努め、ストレスが大きくチームケアへの影響が認められる場合には、施設内異動等の配慮を行なう。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績、勤怠状況を考課し、昇給や賞与に反映させている。 永年勤続表彰の実施。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人、または御家族から利用の相談があれば、施設見学や自宅訪問にて本人の困っていることや、不安なことを傾聴し、初期の信頼関係の構築に努めている。また、本契約前の体験入所を勧めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には御家族に施設見学して頂き、グループホームの雰囲気を感じて頂いている。その際には、本人の困っていることや、不安なこと等を聞き取り、ケアプランに取り入れることで初期の信頼関係の構築に努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接、相談の際には、本人と御家族が必要としている支援を見極め、居宅介護支援事業所や福祉事務所、医療関係等と連携を図り、適切なサービス支援の利用に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設見学や自宅訪問、体験入所にて職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染んで頂き、入所後も精神的にフォローできるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援の理念の下、一人ひとりの個性を尊重した利用者主体の介護を基本としている。日常生活では、調理、清掃、洗濯等を一緒に行うことで一体感を築いている。職員が利用者から教えて頂く場面も多々あり、支えあう関係ができています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族にも利用者を一緒に支えていけるように協力を依頼している。可能な限り面会や、外出、外泊の機会を持って頂くことをお勧めし、利用者を支える役割を持って頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と御家族がより良い関係を築けるように、御家族の来苑時には、随時生活状況をお伝えし、利用者の心身に変化が見られる場合にも、詳細説明、アドバイスをを行い、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出等は原則自由とし、地域や馴染みの人との交流環境を整えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりの性格や病態を考慮しながら、全ての利用者が楽しい日常生活を過ごして頂けるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、必要な方にはいつでもご相談に応じ、関係施設を紹介するなど支援するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントでは、本人の思いや意向を聞き取り、ケアプラン作成の材料としている。本人からの聞き取りが困難な場合にも、ご家族や介護支援専門員より情報入手し、入所後も常に本人主体のケアプランを目標としている。	○	センター方式等のアセスメントシートの活用
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の自宅訪問等で、本人の生活歴や趣味等を聞き取りケアプランを作成している。また、入所に伴い居住環境に変化を生じさせない為にも、使い慣れた家具等の持込みを助言させて頂いている。これまでのサービスについては御家族や担当ケアマネから情報入手し、それに基づいてケアプランを作成している。	○	センター方式等のアセスメントシートの活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活状況や残存能力を総合的に把握し、介護計画に活かすように努めている。	○	センター方式等のアセスメントシートの活用
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の際には、入居者や御家族等から思いや意見を聞き取り、計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しの際や、身体状況その他に変化が生じた場合には、月例会議等で職員が協議した内容に基づいて、計画を見直している。御家族の来苑時にも計画を説明、相談した上で同意を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者の日々の様子、ケアの実践、気づきや工夫を記載、夜間の様子等も含め、情報の共有を図っている。現状では全ての職員が、入居者の日々の変化を把握できているとは言えず、一人ひとりの意識の向上が求められる。	○	個別記録が介護計画の見直しや、情報の共有の為に重要なツールとなるよう、職員は記録を書く能力を向上させるよう取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の生活支援ハウスが2、3階にあり、交流を持っている。また、同法人運営の老人福祉センターでのふれあい喫茶やカラオケ同好会等にも利用参加の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方にも運営推進会議に参加して頂き、協働を図っている。また、消防署指導のもと、利用者にも参加して頂いての防災訓練を年2回実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの生活が困難な場合や、経済的な問題など、本人や御家族の意向や必要性に応じて、同法人の事業所や、他のサービス事業所と連携し、本人にとってより良い暮らしができるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター・安心サポートと協働して、権利擁護事業の利用を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	パートタイムでの看護職の採用、または訪問看護師との連携。服薬管理については全ての職員が把握できるようにすることが望ましい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに際しては、その人らしい暮らしを継続できるよう御家族や転居先と十分に話し合い、ダメージ防止に努めるとともに、事故防止の観点からもしっかりと情報提供を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方は人生の先輩であるということを常に念頭に置き、一人ひとりの尊厳やプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう徹底している。個人記録等は決められた場所に整理保管し、職員とは入職時に個人情報守秘の誓約をしている。	○	穏やかな対応、言葉かけの指導の徹底
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、傾聴・受容・共感を基本として利用者との会話に臨んでいる。個々に合わせた対応、説明にて自己決定を大切にし、思いや希望の表出が困難な方に対しては、日常生活の中での何気ないサインを見逃さないように注意を払っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課を制約せず、利用者一人ひとりのペースに合わせることを基本とし、希望する方には、調理や清掃等のお手伝いもして頂いている。	○	散歩や外出等にも余裕を持って対応できるよう、パート職員の増員が必要。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用・美容は本人の望む店に行けるように心がけている。また、希望する方には、美容師の資格を持った職員が苑内での散髪を行なっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		本人管理に問題のない利用者の方には、ご自身で保管して頂き、好きな時に嗜んで頂いている。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	利用者一人ひとりに楽しみごとや気晴らしをの時間を持って頂く支援を向上させる為には、スタッフの人員確保とスキルアップが必要である。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理が困難な方は、事務所にて管理預かりさせて頂き、必要時に使えるように支援している。		お金を使用された時は、金銭管理出納帳に記入し、利用料金精算時に御家族に領収書を添付した上で、精算説明し署名を頂いている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を好む利用者はもちろんのこと、出不精の方にも声掛けを行なって、買物や散歩に出かける支援に努めている。また、遠方への外出を希望され、職員の同行が困難な場合には、御家族の支援をお願いしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事計画で、花見など季節を感じるができる場所、自動車を使用しての遠足など、普段行けない場所や、利用者が行きたい場所への外出の支援を行なっている。御家族との外出や外泊は、随時自由に楽しんで頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や御家族の要請があれば、電話を掛ける支援、手紙を書いて頂いて郵送するなどの支援を行なっている。		年末には、御家族や知人の方へ年賀状を制作して頂いている。必要な方には、代筆の支援を行なっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、馴染みの人たちの訪問は積極的に受け入れ、来苑時の挨拶はもちろん、湯茶を提供し、本人の日ごろの様子を伝えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に努めている。		病態によりベッドからの転落が予想され四本柵が必要な場合など、利用者の身体が危険にさらされる可能性が著しく高ければ、御家族に説明、同意を頂くケースも考えられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵を職員がかけることはなく、玄関自動扉もボタンを押して、入居者が開けることができる。入居者が迷っておられる時は、その都度職員が扉を開ける対応をしている。鍵をかけることの弊害への理解を深める必要がある。	○	鍵をかけることの弊害について、職員共通の理解を深めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安否確認表を用い、30分から1時間毎に確認を行っている。また、居室に入る際は、ノックや声かけをしプライバシーに配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁を使用時の料理や、加熱調理も個別に対応し、日ごろより入居者に参加して頂いている。状態に応じて、はさみや爪きりを個人で管理して頂いている。タバコやライター等の火気については職員で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を全職員が理解し、場面に適した介助をすることで事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に、速やかに対応する為に連絡網を作成し、いつでも使用できる状態にしている。応急手当や緊急時の初期対応について定期的な訓練が行なえていない。	○	応急手当や緊急時の初期対応について、講習を受けるなど知識を身につけ、マニュアルを作成すること等で職員全員が対応できるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者、職員が参加した避難訓練を行っている。	○	日ごろから地域の行事、活動に参加し、地域との繋がりを深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	御家族来苑時には、本人の様子や、予想されるリスクについて説明、相談を行い、できる限り抑圧のない暮らしが送れるよう努めている。また、やむを得ずリスク回避の為の対応が必要な場合も、必ず御家族に説明、相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日定時にバイタルチェックを行い、声掛けとともに体調の変化の早期発見に取り組んでいる。また、気づいた点は速やかに他の職員、管理者に報告し、情報を共有するとともに、対応についても話し合っている。必要ならば、御家族に連絡、受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成している。また、「くすりの辞典」をいつでも閲覧できる場所に常備している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の水分摂取量を把握し、1日1300mlを目標に、各入居者に働きかけている。排便チェック表にて、便秘の有無を把握している。日課に清掃を取り入れ、また積極的に外出にお誘いするなど、体を動かすよう取り組んでいる。	○	服薬に頼りがちな部分もある為、便秘に対する理解をより深め、効果的な運動や食事を日常的に取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて見守り、介助している。また隣接する歯科への定期受診を支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握している。体調や状態に応じて、お粥やミキサー食を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗い、うがいや、食事前の手洗い、手指消毒を徹底している。HCVの入居者の食器や洗濯物は分けて消毒し、入浴後はお湯の入れ替え、消毒を行い、感染予防に努めている。	○	インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症に関する取り決めが不十分な為、マニュアル作成などに取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日配達されるものを使用している。まな板や台所用ふきんは、ハイター消毒するなど衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎日玄関の清掃を行い、玄関前には鉢植えを置くなど親しみやすい環境づくりに取り組んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆様が集まる食堂では、童謡や流行歌など馴染みのある音楽を大きすぎない音量で流したり、花瓶に植物を生けるなど、心地よく過ごせる空間づくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭にテーブルと椅子を設置し、好きな時に利用して頂いている。また、廊下の空間にソファや椅子を設置し、くつろぎや談笑のスペースとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	安心して過ごして頂けるよう、御家族には本人の 馴染みのある家具や、家で使用していた物を持っ てきて頂けるよう働きかけ、家具の配置なども、 御家族や御本人と相談して決めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気扇による24時間換気に加え、清掃時や必要に 応じて、窓からの換気を行なっている。空調は職 員の体感温度に合わせがちである。また、入居者 が居室の空調操作を誤り、居室が冷えすぎていた りすることがある。	○	室温計を利用して空調管理をするなど、外気温と の差を職員全員が意識していきたい。居室内の温 度は、巡回を徹底し、必要に応じて職員が管理す るようにする。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	要所、要所に手摺りを設置し、建物内はバリアフ リー設計となっている。テーブルなどは角がない ものを使用し、先端が危険な場所にはクッション を貼っている。居室内にも必要に応じて、本人や 御家族了承のもと、手摺りを増設したり、クッ ションを貼ったりしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	写真を使用して、居室を分かりやすくしたり、表 札を入居者の目線に合わせてつけるなど、混乱を 防ぐ工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関先で家庭菜園をつくり、水やりや野菜の収穫 を楽しんで頂いている。また、テラスの一部が洗 濯物干しスペースになっており、毎日のように入 居者が洗濯物を干し、生活スペースとして親しま れている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣接する同法人運営の老人福祉センターやデイサービスと交流に取り組むなど、地域との繋がりを大切に、利用者一人ひとりがその人らしく幸福に暮らせるよう、常に『利用者主体の介護』を意識して、実践している。